

『湖畔の宿』は日本人の情感を呼び起こした。そのメロディ、その詩——寂寥の中に独り生きる強さが醸されていった。兵士は抒情に泣き、独り戦う決意を噛み締めた

文 山川智

時は日独伊三国同盟が締結された頃戦争の足音が毎に高鳴る時節だった徴兵検査で合格した兵力では及ばずやがて一銭五厘の赤紙一枚で召集未来のある若者たちは「御国の為」の大義のために従容として戦地に赴いたが、寂しい……辛い……そんな鬱屈の中に響いてきたのが

へ山の淋しい湖に

ひとり来たのも悲しい心

胸の傷みに耐えかねて

歌声は柔らかく慈愛に溢れていた
高峰三枝子——

兵士の胸に深く刻まれた名となった当局が時局にそぐわぬとレコードを発売しても一度胸に染みた彼女の歌声は追いつけない彼女の歌には戦地慰問で圧倒的人気が集まった高峰三枝子、その歌は声涙俱に下り兵士は等しく瞑目し涙を飲み込んだ『湖畔の宿』は戦地での一朝の夢幻であった



昭和歌謡 誕生物語

【第30曲目】

— 湖畔の宿 —

高峰三枝子

「もう何千回と唄ってきた曲なのにセリフのところに来ると、いまでも胸がジーンとなって涙があふれそうになるんです」

大ヒット曲『湖畔の宿』を歌うとき、高峰三枝子は、よくそんな心情を吐露していた。『湖畔の宿』は佐藤惣之助の詞に服部良一が曲をつけ、昭和15年(1940)に発売。

だが、時は戦時下。その感傷的な詩とメロディは戦意高揚を損なうとして、いったんは発売中止になったが前線の兵隊たちに愛唱されたことで復活。前線慰問の際にも兵士たちのリクエストが最も多かった曲として知られ、とりわけ特攻隊の基地で若い航空兵たちが直立不動でこの歌を聞き、そのまま出撃していったといわれる。

そんなこともあって、当時の同盟国であるビルマやフィリピン、タイなどの要人が参加する大東亜会議が開かれた際、時の総理だった東条英機が首相官邸に彼女を招き、この歌を歌わせたというエピソードも残されている。

高峰は終戦の翌昭和21年、実業家と結婚。一児をもうけたものの8年後に離婚。その時の心労から声帯に病を患い、歌手活動を休止。その後は映画やテレビに舞台を移し、ワイドショーの走りだった「3時のあなた」の初代司会者にも抜擢され、その落ち着いた司会ぶりとも気さくな人柄が視聴者の人気を集めた。

を集めた。

そんな彼女に振って湧いたのが、シリコン騒動だった。高峰は昭和56年(1981)『懐しのブルース』など多くの映画で共演した上原謙とともに国鉄(現JR)の「フルムーン」のCMに出演、高峰の豊かな胸の谷間が大胆に披露される入浴シーンが話題になったものだ。

ところが、このCMに噛みついたのが、元女優で自民党参議院議員の山東昭子氏だった。山東氏は「シリコンを入れた年寄りの胸など見たくない」と発言。これに対し高峰は「胸が大きいのは家系。母も妹も大きい。シリコン入りだ、なんて冗談じゃない！」と反論。当時はそんな話題が連日ワイドショーを賑わせたものだった。

そんな彼女が脑梗塞のため71歳で息を引き取ったのは平成2年(1990)5月のことだった。意識が絶える瞬間まで「早く仕事に戻りたい」と繰り返し訴えていたという高峰。彼女もまた激動の昭和を駆け抜けた、歴史の生き証人でもあった。

山川智●1962年東京生まれ。テレビ制作会社週刊誌記者を経てフリーランスに。著書に『東方神起の涙』『東方神起 J.Y.J.を行く』(共にイーストプレス)、『ビュートメント キュート 幸せのきずな』(リーブル出版)など。また出版プロデューサー作品として『生きる 義家弘介』(スターツ出版)、『デキる社員』(狂食ギャール)共にイーストプレスなど多数。